

高校社会科地理的分野の住教育関連項目における シティズンシップ力を育む設問の日典比較

A Comparison of Geography-related Questions to Foster Citizenship
in High School Social Studies in Japan and Sweden

中山 由梨亜* 薬袋 奈美子**
Yuria NAKAYAMA Namiko MINAI

要約 北欧諸国の教育では、シティズンシップ教育が先進的に取り組まれている。本研究では、日本とスウェーデンの高校課程の地理教科書を対象として、教科書の構成と設問の比較分析を行った。スウェーデンの教科書は、世界における諸課題に対して、現状だけでなくその歴史や背景を詳しく学び、現状課題への対策を生徒自身に考えさせる内容が多い。課題の経緯を細かく知ることで、人間がどのように地域社会を築いて発展してきたかを深く理解することができる。また、世界の事例を他人事として知識を得るだけでなく、自分事として課題を捉え、将来的に必要な地域社会のあり方を考える機会を多く与えている。日本の教科書では、課題に対して実践的に取り組むことを促す設問が少ないことが課題といえる。

キーワード：批判的思考力、シティズンシップ教育、消費者教育

Abstract Citizenship education is an advanced initiative in education in Scandinavian countries. The current study conducted a comparative analysis of the composition of high school geography textbooks and questions in Japan and Sweden. Many Swedish textbooks teach students the current state of various problems around the world as well as their history and background in detail, and they often encourage students to think about steps to deal with current problems. By knowing the detailed events leading to an issue, we can gain a deeper understanding of how humans have created and developed communities. A student can learn about cases around the world and about other people's concerns, and he can also be given the opportunity to think about his own concerns and to think about what type of communities will be needed in the future. The problem with Japanese textbooks is that they contain few questions that encourage practical efforts to address issues.

Key words : Critical thinking, Citizenship education, Consumer education

1. はじめに

2008年に「生きる力」を育む学習指導要領改定があって久しい。様々な教科で取り組むことのでき

る住教育の一つとしての地理教育に注目して、その検討を行う。本研究では、日本とスウェーデンの高校課程の地理教科書を対象に教科書の構成と設問の分析を行った。対象とする教科書はスウェーデンの高校課程の地理「GEO – geografi för gymnasiet (Gleerups Utbildning AB, 2008年)」¹と、日本の「高等学校 新地理 A (帝国書院, 2020年)」²を分析に用いた。日本の教科書は、2020度に使用されたもののうち、最も設問数が多いものを選定した。

* 家政学研究科住居学専攻
Division of Housing Graduate School of Human Sciences
and Design
** 住居学科
Department of Housing and Architecture

本研究では日本とスウェーデンの比較の為、両者で違いが多く見られた地形や気候と生活の関わりについて記載している項目と、住環境に密接に関わる都市計画の項目について比較を行う。

2. 日本の教科書

2-1 教科書の構成

教科書の設問が含まれる本文と、地図やグラフの読み取りの練習等の実践的な地理的技能について学ぶコーナー「技能をみがく」が適宜配置されている。本文では図や写真等の資料が半分の面積を占めており、設問は見開き1ページに1~3問設けられている。本文の内容は主に、地形や気候に関する世界の事例を紹介する章、世界の諸地域別に自然環境や生活文化、歴史を説明している章、現代の地球規模の課題について触れている章や日本の自然環境と防災に関する章で構成されている。災害や防災については大きく取り扱っており、身近な地域に関して調査するように促す設問も複数見られた。

2-2 地形や気候に関連する本文の構成と設問

日本の教科書では、地形や気候と生活の関わりについては「2章 人間生活を取り巻く環境」に記載されている。2章ではTable 1に示す3節26頁の本文と、それに付随する25問の設問が設けられている。(Table 3) 25問中23問が本文に記載している知識を確認する設問であった。そのうち本文記載の知識をただ確認するだけでなく、思考力を深める設問や能動的な社会参画を促す設問は7個みられた。たとえば、「遺伝子組み換え作物の普及による利点と、心配される点についてまとめてみよう」といったような批判的思考力を促す設問や、「同じ温帯でも、大陸の西岸と東岸で、気温や降水量に違いが生じるのはなぜか、話し合ってみよう。」といったような、話し合いにより思考を深めるよう促す設問がみられた。しかし、こういった思考力等を培う設問でも設問から近い箇所の本文中に答えが書いていることが多く、自ら詳しく背景や現状を調査して答える必要のある設問はほとんどみられなかった。

2-3 都市計画に関連する本文の構成と設問

都市計画に関する記載は、世界の諸地域の生活文化を説明する章に各地域の都市の様子や問題について少しずつ触れている。また、「4章 地球的課題と

Table 1 Structure of Chapter 2

2章 人間生活を取り巻く環境		頁数	設問数
1節	人々の生活と地形 30~37頁	8	9
2節	人々の生活と気候 42~53頁	12	10
3節	人々の生活と産業・文化 54~59頁	6	6
合計		26	25

Table 2 Structure of Chapter 4

4章 地球的課題と私たち		頁数	設問数
1節	複雑にからみ合う地球的課題 146~147頁	2	1
2節	世界の環境問題 148~153頁	6	3
3節	世界の資源・エネルギー問題 154~157頁	4	2
4節	世界の人口問題 158~161頁	4	3
5節	世界の食料問題 162~163頁	2	2
6節	世界の都市・居住問題 164~167頁	4	3
合計		22	14

私たち」ではTable 2の通り22頁にわたって世界の諸課題について触れている。

4章に付随する設問はTable 4に示す14問である。他の章の設問と比べ、世界における都市の諸課題について触れている内容が多い。このうち、「世界の人口問題とその対策について、先進国と発展途上国に分けて、それぞれの特徴を表に整理してみよう。」というような、本文記載事項を整理させることで、本文の内容を確認する設問が7問であった。また、内容の確認だけでなく、「先進国の都市のなかで大規模な再開発を行なっている都市を調べ、どのような再開発か、短いレポートにまとめてみよう。」といったような、生徒自身に世界の事例を調べるよう直接促す設問は2問みられた。「地球規模の環境課題を解決するために、私たちができることは何か考えてみよう。」「穀物を飼料として与えられ、生産された肉類を消費することの影響について考えてみよう。」というような、生徒自身の意見を求めたり生徒自身に課題について考察させたりする設問は4問であった。こういった生徒自身の意見を求める設問は、批判的思考力や能動的な課題解決への参画を促すと言えるが、教科書全体と比較すると同様の設問は少ないと言える。

3. スウェーデンの教科書

3-1 教科書の構成

スウェーデンの教科書では、資源や環境、地形、食料、人口、生産、貿易、観光、都市などの細かいテーマごとに章で分けて掲載している。各章の末尾にはその章で扱うトピックの一覧と設問が1頁でま

Table 3 Questions accompanying Chapter 2

	本文に付随する設問	確認	社会 参画	コミュ ニケー ション	課題 解決	思考力
1	図2を見て、日本列島の近くにはどのようなプレート境界が集まっているか確認しよう。	○				
2	図4を見て、衝突によってヒマラヤ山脈を生み出した二つのプレートの名称を確認しよう。	○				
3	扇状地の扇央と扇端における土地利用の特徴について、「水はけ」「地下水」という語句を用いて説明してみよう。	○				
4	氾濫原では、集落や畑、水田がどのような地形に立地しやすいか、それぞれまとめてみよう。	○				
5	リアス式海岸はどのように形成されるのか、まとめてみよう。また、海岸の入り江にはどのような産業が立地しやすいのか、考えてみよう。	○				○
6	近年、日本では自然のままの海岸が減少している。その理由についてまとめてみよう。	○				
7	地図帳を使って、海面上昇により水没が心配されているサンゴ礁の島国を探してみよう。	○				
8	氷河地形や乾燥地形の地域では、それぞれどのような場所で人々は生活しているのか、まとめてみよう。	○				
9	写真④のフィヨルドとp.34の写真②のリアス海岸の違いについて、説明してみよう。	○				
10	図①で、日本と、ほぼ同緯度のヨーロッパの大西洋岸とを比較してみると、どちらが温暖だろうか。年平均気温の等温線から読み取ってみよう。	○				
11	図①で、沿岸部に暖流が流れる地域と寒流が流れる地域の年平均気温や年降水量には、どのような違いが読み取れるだろうか。	○				
12	熱帯雨林気候とサバナ気候の違いを、分布、降水量、植生の点でまとめてみよう。	○				
13	熱帯地域にみられる代表的な農産物には、どのようなものがあるのか、巻末2～3で調べてみよう。	○				
14	写真4・5を比較して、季節によって景観が異なる理由について考えてみよう。	○				○
15	砂漠気候とステップ気候の分布の境界は、年降水量何mm付近がめやすとなるのだろうか。図7とp.42図1を見比べて、考えてみよう。	○				
16	現地レポートを読んで、オアシスの暮らしにみられる特徴について、まとめてみよう。	○				
17	地中海性気候(Cs)・西岸海洋性気候(Cfb)・温暖湿潤気候(Cfa)・温暖冬季少雨気候(Cw)の各気候を特徴づける風や植生、おもな農牧業について、表にまとめてみよう。	○				
18	同じ温帯でも、大陸の西岸と東岸で、気温や降水量に違いが生じるのはなぜか、話し合ってみよう。			○		
19	図6を見ると、南半球には亜寒帯がほとんどみられないのがわかる。その理由について、北半球と南半球の大陸分布の違いに着目して考えてみよう。	○				○
20	自給的農業・商業的農業・企業的農業の分布地域や特徴を、自然条件と社会条件の両面から整理し、まとめてみよう。	○				
21	クローズアップを読んで、遺伝子組み換え作物の普及による利点と、心配される点についてまとめてみよう。	○				
22	軽工業・重化学工業・先端技術産業(ハイテク産業)でつくられる、おもな製品の例をあげてみよう。	○				
23	図②を見て、1人あたりのGNIが高いドイツと、それが低いエチオピアの工業の特徴を、工業の内訳の割合に注目して考えてみよう。	○				○
24	図④を見て、キリスト教・イスラーム教・仏教・ヒンドゥー教・ユダヤ教が、それぞれおもにどのような地域で信仰されているのか、まとめてみよう。	○				○
25	英語・フランス語・スペイン語・アラビア語が公用語になっているのはどのような国々か、図⑦を見て考えてみよう。					○

分類方法は中山(2021)³に基づく。確認：教科書で説明された内容を確認する設問，社会参画：社会への参画を促す設問，コミュニケーション：話し合いを促す設問，課題解決：現代社会の問題の考察につながる設問，思考力：思考力を育む設問。それぞれ該当する箇所に○をつけた。

Table 4 Questions accompanying Chapter 4

	本文に付随する設問	確認	社会参画	コミュニケーション	課題解決	思考力
1	図1を見て、おもに先進国で発生する問題と、発展途上国で発生する問題とに分けて整理してみよう。	○				
2	地球規模の環境課題を解決するために、私たちができることは何か考えてみよう。		○	○	○	
3	アマゾン川流域とスマトラ島の熱帯雨林破壊地域は、どのような土地に開発するために伐採が行われているのだろうか。地域ごとの特徴をまとめてみよう。	○				
4	図3から、どのような地域で二酸化炭素の排出量が多いのか、また図5から、どのような地域でその伸びが著しいのかを読み取ろう。さらに、その背景には何があるのかを考えてみよう。				○	○
5	身のまわりにある省エネルギーやリサイクル、再生可能エネルギーの例をあげてみよう。	○	○			
6	世界のなかで、再生可能エネルギーの導入に力を入れている国を調べ、背景となる自然環境の特徴と推進されている再生可能エネルギーの種類を表にまとめてみよう。				○	
7	世界の人口問題とその対策について、先進国と発展途上国に分けて、それぞれの特徴を表に整理してみよう。	○				
8	インドの人口政策が成功した場合、図2の人口ピラミッドの形がどのようになるか予測してみよう。					○
9	高い社会福祉の水準を維持するために、高額な税金を負担することについて、あなたの考えをまとめてみよう。		○		○	
10	発展途上国で食糧不足や飢餓が起こる原因をあげてみよう。	○				
11	穀物を飼料として与えられ、生産された肉類を消費することの影響について考えてみよう。				○	○
12	都市問題にはどのようなものがあるのか、発展途上国と先進国に分けて、具体例をあげてみよう。	○				
13	メキシコシティの都市問題の原因を、地形などの自然的要因と人為的要因に分けてまとめてみよう。	○				
14	先進国の都市のなかで大規模な再開発を行なっている都市を調べ、どのような再開発か、短いレポートにまとめてみよう。		○			

分類方法は中山(2021)³に基づく。確認：教科書で説明された内容を確認する設問、社会参画：社会への参画を促す設問、コミュニケーション：話し合いを促す設問、課題解決：現代社会の問題の考察につながる設問、思考力：思考力を育む設問。それぞれ該当する箇所に○をつけた。

とめて置かれている。設問は2つのタイプに分けて置かれ、教科書本文の内容を確認する設問と、本文の内容に触れてさらに調査や話し合いを促す設問となっている。

3-2 地形や気候に関連する本文の構成

地形や気候に関わる内容は「3章 地球・地形・風土」で書かれている。本章はTable 5に示す1節～8節の51頁にわたり、地質学的内容が多く記載されており、日本と大きく異なっている。太陽系にはじまり、地球の構造や地震の仕組み、世界全土の溶岩や土壌の種類を詳しく説明した後で、スウェーデンの地形や土壌にかかわる事項が記載されている。

Table 5 Structure of Chapter 3

3章 地球・地形・風土	頁数	設問数
1節 太陽から3番目の地球 52～53頁	2	1
2節 地球の構造 54～59頁	6	11
3節 地球の内力 60～70頁	11	12
4節 地球の外力 71～74頁	4	5
5節 岩盤 75～79頁	5	7
6節 スウェーデンの基盤 80～85頁	6	3
7節 土壌の種類と土壌 86～89頁	4	4
8節 氷が風景を形作った 90～102頁	13	3
合計	51	46

3-3 地形や気候に関連する設問

設問は2つのタイプに分けてあり、教科書本文の内容を確認する設問と、本文の内容に触れてさらに調査や話し合いを促す設問となっている。教科書の内容を確認する用語説明や事例確認の設問が46個、Table 6に示す話し合いや調査により学習内容の理解を深めてさらに発展的に社会への影響を考えさせる設問7個で構成されている。

話し合いや調査を促す設問は、例えば地殻変動による住宅や道路の建設への影響を調査する課題式の設問や、スウェーデンの地質学的特性がコミュニティ構築に与える影響を考察する設問など、教科書で学んだ知識を住環境や経済にどう生かすかを発展的に考えさせる設問がみられた。たとえば、Aの設問では、答えを導き出すには自ら事例について調べる必要がある。大地震が繰り返される仕組みについて学び、現代生活に及ぼす影響についても学ぶ機会となる。Bの設問では、教科書65頁の内容から派生して、異なる事例を調べる必要がある。能動的な課題解決や社会参画を促す内容である。全体的に他の教科にも応用できる総合的な知識やスキルが必要となる設問が多く見られた。

Table 6 Issues with verifying the material in Chapter 3

A	米国カリフォルニア州のサンアンドレアス断層の研究。事実は主にウェブ上で見つけることができます。次のことを考慮して話し合ってください。カリフォルニアで地殻の長い亀裂が発生したのはなぜですか。問題のプレートはどのくらいの速さでどの方向に動いていますか？警報システム、家や道路の建設などに関して、カリフォルニアの人々にとってサンアンドレアス断層の結果は何ですか？
B	65 ページには、地震は西から東に「移動」として書かれていますが、トルコでは黒海近くの亀裂に沿って、代わりに東から西に移動します。これを行う方法について話し合います。
C	ホットスポットとマグマブルームの不調。「溶岩ランブ」での活動を研究し、説明します。この現象は何と呼ばれていますか？この現象が発生する他の状況について話し合います。
D	「内力と外力」という見出しが付いた2列のチャートを作成します。次の概念とステートメントを正しい見出しの下に書いてください。また、各概念とステートメントの例を使用して説明を記述します。 内因性プロセス、外因性プロセス、岩石の侵食、岩石の構築、深い穴の作成、深い穴の堆積物の充填、高さの違いの均等化、高さの違いの作成、地球内部からのエネルギーによる駆動、太陽エネルギーによる駆動。
E	風化と侵食は、土壌タイプがどのように形成されるかにとって非常に重要です。中国北部の緩い土壌とウクライナの黒い土壌がどのように形成されたか、そしてこれらの土壌が言及された地域の人口にとってどのような重要性を持っているかを調べてください。
F	鉱物磁鉄鉱と赤鉄鉱は、スウェーデン経済にとってこれまでも、そして今も大きな意味を持っています。鉱物が何を含み、何に使用されているかを調べ、大きな経済的重要性を説明してください。
G	スウェーデンの風景の小石の尾根は、コミュニティの構築とインフラストラクチャにどのように影響しましたか？問題を議論するための前提条件として、尾根の地質学的特性を調べてください。

3-4 都市計画に関連する本文の構成

都市計画に関わる内容は Table 7 に示す「11章 都市」に記載され、都市の成り立ちから世界における都市計画の歴史を細かく載せている。本章で扱っているトピックは Table 8 に示した通りである。また、スラムや環境汚染などの都市における半永続的な課題にも触れ、問題が生じた原因と過去の対策を踏まえて説明している。

Table 7 Structure of Chapter 11

11章 都市		頁数	設問数
1節 都市と4つの要素	284~287 頁	4	3
2節 場所としての都市	288~291 頁	4	5
3節 発展途上国の都市	292~297 頁	6	4
4節 都市計画	298~305 頁	8	9
5節 モデルパターンとしての都市	306~313 頁	8	9
合計		30	30

Table 8 Topics covered in Chapter 11

都市化・都市の生態学的フットプリント・持続可能な都市・スペースユーティリティ・収益力・都市化の程度・「Zwischenstadt」(ミドルタウン)・メガシティ・メガロポリス(都市景観)・スラムとスラム街・公益事業・ポイントハウス・モダニズムと機能主義・ABC 郊外・ミリオンプログラム・分離とゲッター・ゲートコミュニティ・ゾーンモデル、セクターモデル、マルチコアモデル・CBD(中央ビジネス地区)・昼と夜の人口・有機的なパターン・グリッドパターン・放射状および斜めのパターン都市のシルエット(スカイライン)・ランクサイズルール・中心都市理論
--

3-5 都市計画に関連する設問

本章に設けられている設問は、Table 9 に示す本文の内容を確認する設問が 16 個と、Table 10 に示す【話し合いや調査を促す設問】の 14 個である。これは本文の内容を現代や身近な住環境における課題として捉え、その原因を考察したり解決策を生徒自身に考えさせたりする設問である。【話し合いや調査を促す設問】を回答するためには、例えば次のような手順が必要になる。

A の設問では、本文に記載されている事例を踏まえつつ、本章全体を参考にして住環境に与える影響を自ら考える必要がある。B の設問では、自分が暮らす街でスペースを有効活用するためにしていることもしくは有効活用されている場所を探し出し、それが街に与える影響や、街の特徴を捉えることが必要とされる。D の設問では、本文にメガシティとメガロポリスの説明や事例は載っているが、この設問に答えるための材料は章全体に散らばっていると言えるため、答えを見つけるのが容易ではなく、本文を広く理解して自分の考えをまとめることが必要とされる。G の設問では、本文で2つのパターンが登場した経緯の説明はされているが、長所と短所は明記されていない。それぞれの特徴を詳しく調べて、現代に生きる自分の生活に合う家を考える機会となる。H の設問においては、本文ではミリオンプログラムという単語だけ出てくるが、具体的な内容や課題などは自ら調べる必要がある。1965~75 年にかけてスウェーデンで策定された 100 万戸住戸建設計画。自国の歴史を理解して考察することができる。I の設問では、本文でゲッターなどの都市で発生した民族分離地区の説明があり、都市における民族の分離において自ら深く考え、意見を示す必要がある。批判的思考力を促す設問になっている。K の設問では、3つのモデルについて本文で説明されており、

Table 9 Problem of confirming the content of the text in Chapter 11

	本文の内容を確認する設問	確認	社会 参画	コミュニ ケーショ ンカ	課題 解決	思考力
1	都市は水循環にどのような影響を与えますか？	○				○
2	都市をより持続可能なものにする為の対策の例を挙げてください。	○			○	
3	都市とは何ですか？いくつかの異なる定義をしてください。	○				○
4	いくつかのメガシティといくつかのメガロポリスの例を挙げてください。	○				
5	発展途上国の都市を区別するものは何ですか？	○				○
6	スラムにはどのような種類がありますか？	○			○	
7	19世紀に都市はどのように変化しましたか？	○				
8	自動車は都市開発にどのような影響を与えましたか？	○			○	
9	ミリオンプログラムとは何ですか？	○				
10	スウェーデンの3つまたは4つの都市地域は何ですか？	○				
11	スウェーデンの都市の現在の傾向は何ですか？	○				○
12	地価は、市内のある地域で行われる活動にどのように影響しますか？	○				○
13	都市や地区の有機的なパターンはどのように発生しますか？	○				○
14	都市のグリッドパターンが非常に一般的で人気があるのはなぜですか？	○				○
15	記念碑的な視点の例を挙げてください。	○				
16	ランクサイズルールとは何ですか？	○				○

Table 10 Questions to encourage discussions and investigations in Chapter 11

	話し合いや調査を促す設問
A	地球の人口の半分以上が、地球の陸地の1~2%に相当する都市に集中している場合、どのような影響がありますか？
B	スペースユーティリティのための「あなたの街」の用途は何ですか？
C	例えば都市化の程度において、なぜ国際比較統計を鵜呑みにしない必要があるのでしょうか。
D	一部の都市をメガシティにする理由は何ですか？
E	植民地主義は、以前の植民地の都市が苦しんでいる問題にどのように貢献しましたか？
F	スラムを統合して実際の都市の一部にするためには、どのような対策が必要ですか？
G	1930年代に、彼らは近所、中庭、通りに面した家のシステムから、光と空気に囲まれた家を指し示しました。2つのシステムの長所と短所は何ですか、そしてあなたは何を好みますか？
H	ミリオンプログラムの住宅に住む人々はどのように繁栄し、これらの地域に住んでいない人の意見はどうですか？調査してください。
I	分離は常に悪ですか？あなたがそれを打ち消すつもりなら、あなたはそれから何をしますか？
J	今日の都市計画の傾向の例を調べてください。
K	どのモデル（ゾーン、セクター、マルチコア）があなたの街に適していて、どのモデルが50年前と100年前に適していましたか？
L	あなたの街/地域の人々はどのように通勤していますか？そして、彼らは仕事への往復にどのくらいの時間を費やしていますか？
M	自分の街でどのように動きますか？どの車線、障壁、地区、ランドマーク、ハブを使用していますか？
N	あなたが住んでいる地域では、中心都市（村、小さなコミュニティ、小さな都市、大きな都市）の階層の観点からどのように見えますか？

本文で得た知識を身近な街で活かす方法と、なぜそれらがかつて活かされていたのか、歴史を理解して将来の住環境を深く考える機会を与えている。Mの設問では、本文にグリッドパターンの説明やランドマークを用いた中世の代表的な都市の事例を挙げている。自分が普段から街をどのように移動しているのかを把握し、都市で暮らすことに何が影響しているのか、役立っている機能や場所はどのような特性があるのかを考察し、都市において人々の足を動かしている機能とは何かを考える機会となる。

A~Nの14問全ての設問が本文の内容に沿っており、世界で生じている課題や問題意識に繋がる設問

である。また、8問は自身の暮らす街について考察する内容や、自身の意見を問う設問であった。これらの設問は、本文に記載されている世界の事例から都市の成り立ちや長所と短所を把握し、それが身近な環境においてどのように活かされているかに目を向ける必要がある。身近な都市や住環境について深く考察し、現代の課題に向き合う機会となる設問である。

生徒が社会的問題を他人事ではなく身近な問題として捉え、その背景を深く理解しながら将来より良い住環境が提供されるには何が必要なのかを探ることができるといえる。

3-7 地理的研究

本教科書の末尾には、本文とは別に地理的研究と題した13個の課題を設けている。各課題の題目はTable 11に示す通りである。これらの内容とそれを解くプロセスは。たとえば、【地理学における自身の仕事】では、地理学の学習において、文書や資料から知識を得るだけでなく、フィールドワークが重要であるということを示している。調査対象者が適切に答えられる質問形式や方法や、調査結果をまとめる際に使用する情報のソース元の確認、分析結果と結論の書き方まで、丁寧にレクチャーしている。

【ヨーロッパの農業地域-地図の練習】では、ヨーロッパの農業に最適な条件を備えた地域を特定し、地図を作成させる課題。地質構造、植物、土壌、年間降水量、気候の面から白地図にマークや色を付けていく工程を記載し、完成した農業地域の地図と実際のヨーロッパの土地利用の地図を比較させて結論を導き出すように指示している。【キルナ-街を動かせますか?】という課題では、100年以上前に採掘が始まったスウェーデンの鉱山と隣町キルナについて、採掘規模の拡大により将来的に都市を移動する必要性が考えられるため、都市の移転にはどの分野のどれほどのプロセスが存在するのか、例えば地質学、法律、気象学、財政、人口など都市移転に関する事実を調べて理解させる課題。都市の移転がどれほど複雑で重要であるかを理解することが目的になっている。【パナマとスエズ運河-2つの重要な近道】では、世界的に重要な流通経路となる2つの運河は地政学的にも重要であり、運河が建設された経緯と歴史を説明した上で、現在多く利用されている他の流通経路において気候、経済、軍事的重要性等の面を考察する課題になっている。【アラブ首長国

連邦-石油がどのように社会を根本的に変えたのか】という課題は、石油により世界で有数の裕福な国に進化したアラブ首長国連邦の歴史を説明し、アラブ首長国連邦の地理的条件と財政面の現状を調査させるものである。また、石油が有限の資源であることに触れ、他国との貿易、ビジネスコミュニティの現状を把握させ、それが持続可能な社会を実現できるのかという点にも問題を投げかけている。

世界のさまざまな事例の課題研究を通して、教科書本文の内容全てが地理学において総合的に必要になることを示唆する内容になっている。1つの課題に対しても1つ2つの分野の知識だけでは解決することができず、多様な分野の知識と見解を得ながら対策が練られ、持続可能な都市を築くことができるということを実感できる実践的な内容である。

4. 日本とスウェーデンの比較

本文の構成と設問において、両国の教科書の内容では違いが多くみられた。たとえば、地形に関連する内容では、プレートの移動に関するトピックは両国の教科書に同様に記載があったが、日本の教科書の設問ではプレートの名称を確認するのみで、スウェーデンの教科書ではプレートの移動による影響を調査する設問が置かれていた。また、都市計画におけるトピックでも、日本の教科書では、世界の諸地域の現状と課題を1文または2文程度で紹介する程度であったが、スウェーデンの教科書では1頁もしくは数頁にわたり課題の背景と要因、現状と今後の課題まで丁寧に記載していた。設問においても同様に、日本の教科書では、現状を表や自分の言葉でまとめるように促す内容が多かったが、スウェーデンの教科書では現状の課題に対する解決策を生徒に

Table 11 Tasks of Geographical studies

地理的研究	
1	地理学における自身の仕事
2	ヨーロッパの農業地域-地図の練習
3	キルナ-街を動かせますか?
4	パナマとスエズ運河-2つの重要な近道
5	アラブ首長国連邦-石油がどのように社会を根本的に変えたのか
6	バレンツ地域-地域を作成する試み
7	テーマ別マップの操作
8	ムンバイ「デンバーエクササイズ」
9	薬の生産、流通、消費
10	スウェーデンのビジネスはどのくらいスウェーデンか?
11	気候変動とインフラ
12	あなたの故郷はいつ「生まれた」のですか?
13	空の旅と持続可能な開発

考えさせたり、都市における課題の背景を踏まえた上で将来必要となる対策を考察させたりする内容が多くみられた。両国の教科書とも用語確認や本文の内容を説明させる設問が多くみられたが、同じトピックでも、日本の教科書では知識と現状を確認するのみの設問が多かったが、スウェーデンの教科書では現状からどのような問題が発生して何に影響しているのかを生徒自らに調べる機会を与えている設問が多かった。

また、スウェーデンの教科書の末尾に設けられている「地理的研究」では、世界の実例をもとに1つの都市の課題に対して、教科書全体で学ぶ総合的な知識やスキルが必要となることを実感できる、実践的な研究課題も載せている。日本の教科書では、このような実践的で総合的な課題に触れる機会がほとんど設けられていない。

5. まとめ

スウェーデンの教科書は日本の教科書と比べ、より専門的な内容や地誌学的なアプローチが多く、他の教科とも連携できる総合的な内容になっているこ

とが特徴である。世界中の社会における諸課題に対して、現状だけでなくその歴史や背景を詳しく学び、現状課題への対策を生徒自身に考えさせる内容であった。課題の経緯を細かく知ることによって、人間がどのように地域社会を築いて発展してきたかを深く理解することができる。また、世界の事例を他人事として知識を得るだけでなく、自分事として課題を捉え、将来に必要な地域社会のあり方を考える機会を多く与えている。こうした学習方法により、実践力を身につけ、日常的な事柄に対する課題意識や能動的に社会に働きかける力を養うことができる。

【参考文献】

- 1) Bo Andersson ほか：「GEO - geografi för gymnasiet」, Gleerups Utbildning AB, 2008 年
- 2) 荒井良雄ほか：「高等学校 新地理 A」, 帝国書院, 2020 年
- 3) 中山由梨亜：中学社会科公民的分野の住教育関連項目におけるシティズンシップ力を育む設問の日芬比較, 日本建築学会学術講演会梗概集, 2021 年